

解剖学		講義	教授 加藤 政彦	
科目カテゴリー	救急救命士コースの専門基礎分野	科目ナンバリング	13311101	

1. 授業のねらい・概要

医学の基礎である人体の構造を、マクロで観た人体の成り立ちや構造と、ミクロで観た各器官の成り立ちや構造の方面から理解する。加えて、正常な器官の生理機能も学修する。

2. 授業の進め方

テキストの範囲の内容を、適宜、スライドと配布資料を用いて授業する。基礎医学分野の科目となるため、より理解を深めるよう、適宜、器官の模型・生体・画像などを使用した説明を行う。

3. 授業計画

1. 人体を構成する要素 人体の位置、方向、運動に関連する用語、体表から見た構造と名称について理解する。 解剖の種類・組織・細胞の構成・細胞小器官について理解を深める。 2. 体表からみる人体の構造 人体を構成する4つの組織（上皮組織・支持組織・筋組織・神経組織）について理解する。 3. 神経系 人の思考・感情や恒常性の維持を司る、「神経系」の構造・機能を理解し、重要性の理解を深める。 4. 感覚系 器官の役割・構造・機能を理解する。 5. 呼吸器系 人の生命維持に不可欠な「呼吸系」に属する臓器・構造・機能を理解する。 6. 循環器系 人の生命維持に不可欠な「循環系」に属する臓器・構造・機能を理解し、呼吸系との関連性についても理解を深める。 7. 消化器系①（胃・十二指腸・大腸） 8. 消化器系②（肝・胆・膵） 人が日常活動するために必要なエネルギーを食物から得て、消化し分解する、「消化系」に焦点を当て、属する臓器の構造・機能を理解する。	9. 泌尿器系 人体内で代謝され生じた老廃物を排泄する、「泌尿系」に属する器官の構造・機能を理解する。 10. 生殖器系 生殖系に属する器官の役割・構造・機能について理解する。 11. 内分泌系 内分泌の役割・構造・機能を理解する。また、ホルモンについても理解を深める。 12. 血液系 器官に含まれている成分や機能について理解し、循環器系との関係性についても理解を深める。 13. 免疫系 免疫系の役割・構造・機能について理解し、液性免疫・細胞性免疫の違いについても理解を深める。 14. 筋・骨格系、皮膚系 動作に関係する組織や器官の役割・構造・機能、皮膚の役割・構造・機能・機能について理解する。 15. まとめ 第1回～14回までのまとめと確認試験を行う。
---	---

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業を受講するまでに前回の授業内容を、テキストと配布資料を使って復習しておく。さらに、授業の最後に出された問題を復習しておく。この問題は次回の授業の初めに解答を解説する。なお、これらの準備学習には90分以上が必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回、過去に実施された国家試験の問題を実践解答させる。問題解答の際、また定期試験実施の際、解答のポイントおよび出題意図を試験終了直後に説明する。

6. 授業における学修の到達目標

- 1) 人体の構造と機能を理解する。
- 2) 心身の発達に関する知識を系統的に修得する。

7. 成績評価の方法・基準

平常点（30%）、定期試験（70%）を総合的に評価する。

8. テキスト・参考文献

テキスト：五味敏昭，岸 清 編，解剖学 改訂3版，中外医学社，2018年

救急救命士標準テキスト編集委員会，救急救命士標準テキスト 改訂第10版，へるす出版，2020年

参考文献：小関一英編，2023年版救急救命士国家試験対策出題分野別国試験問題・解説集，晴れ書房，2022年
適宜指定する教材

テキストは毎回の授業に必ず持参すること。また，参考文献は適宜紹介する。

9. 受講上の留意事項

携帯電話の使用，飲食，帽子の着用は禁止とする。

欠席回数が全講義回数¹の3分の1（6回）以上となった場合には受験資格を失う。

遅刻，欠席ならびに授業中の私語，許可の無い教室の出入り，授業に関係ない言動は慎むこと。

自然科学・高校の生物学の履修しておくことが望ましい。

本科目の単位を取得してからでないと，専門分野への履修申請を行うことができない科目がある。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当有無

該当する。医療機関における医師としての実務経験を活かして講義を行う。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。